

## 自 己 評 価 表

愛媛県立三崎高等学校

学校番号(39)

教育方針	生徒一人一人の個性を尊重し、ゆとりある伸び伸びとした学習活動を推進することにより、たくましく生きる力を育成する。	重点目標	1 進路満足度100%に向け、一人一人に応じた指導を徹底する。 2 部活動と学校行事を充実させ、豊かな人間性を育てる。 3 地域に根ざした学校づくりとボランティア活動を積極的に推進する。 4 基本的な生活習慣を確立し、高い規範意識を育てる。 5 人権意識を高め、いじめや差別のない社会の実現を目指す。
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	重点目標達成のための実践	本校の重点目標を理解し、その実現に向けて創意工夫をしながら実践に励む。	B	学校の魅力化に関する従来の取組に加え、伊方町の取組である公営塾が創設され、生徒の進路目標の実現につなげることができた。また、学校存続のために、今年度から全国募集を開始した。全国募集に関連し、学校HPについても工夫し、生徒の個人情報に適切に取り扱いながら、FacebookやYouTubeにリンクさせ、本校の魅力の発信に努めた。	学校の魅力化づくりの一つとして、伊方町の取組である公営塾が創設されたが、今後もさらに、学校の魅力化と地域活性化の相乗効果を図り、持続可能な取組に発展させたい。学校存続のために今年度から取り組んでいる全国募集については、学校HPを利用したFacebookやYouTubeの発信だけでなく、さらに工夫が必要である。
	地域と連携した教育活動の充実	地域と連携した教育活動を行う。	A	授業(学校参観DAYS)・学校行事(体育祭・文化祭・開校記念行事等)・総合的な学習の時間(みさこう体操、せんたんミーティング、せんたんビギンズ等)・部活動等様々な活動を通して、発展した取組で地域の連携を図ることができた。	地域のハブとしての高校の役割を果たすために、地域との連携を図りながら、創意工夫のある教育活動を展開し、さらに地域の活性化に取り組みたい。
	危機管理体制の充実	本校の危機管理マニュアルに基づいた活動を行う。	B	校内及び地域の防災訓練等を通して危機管理体制を再確認し、災害時に実効性のある具体的な対策に努めた。7月の台風12号接近時には、伊方町からの依頼により本校体育館を地域の方々の避難場所として地域と連携して行った。	自然災害・火災や原子力防災等、危機管理マニュアルの見直しを行い、実効性を高める取組を行いたい。また、本校が避難場所となった場合の行政や地域の方々との連絡の取り方については今後検討していく必要がある。
学習指導	家庭学習の充実	高い目的意識と主体的な家庭学習習慣を身に付けさせ、平均家庭学習時間150分以上を達成する。	B	平常時の平均時間は143分であり、目標を達成することができなかった(調査時の平均は214分)。昨年度の平均時間が153分だったので10分下回った。しかし、調査時の平均は昨年度を40分以上回ることができた。公営塾が開始され、定期調査に対する意識付けと動機付けがなされたことも要因の一つであると考察される。	参考書やスタディ・サプリ等を用いて、平常時から継続的に学習する意識を向上させていきたい。また、家庭学習習慣が身に付いていない生徒に対しては学習方法から指導していく必要がある。公営塾とも連携を図っていきたい。
	教科指導の充実	積極的に研修を行うことで教員の指導力向上を図り、生徒の授業評価ポイント4.0以上を目指す。	A	全校生徒に対し授業評価アンケートを実施して、全ての教員が4.0以上をクリアしていた。	引き続き、生徒からの評価をもとに授業内容を改善するとともに、ICT機器やスタディ・サプリを活用して分かりやすい授業を心掛けたい。さらに今後はアクティブラーニング的な要素を取り入れた教科指導の充実にも努めたい。
		漢検2級取得者5人、実用英検2級取得者2人、商業資格検定1級取得者6人(うち3種目以上1級取得者2人)を目指す。	C	漢検2級2人、英検2級1人、商業資格検定1級0人であった。	検定の合格に向けて目標を立てて計画的に勉強したり、継続した勉強を続けていったりできるような力を身に付けさせたい。

生徒指導	生活指導の充実	身だしなみ指導を毎月1回実施し、毎回不合格者0人を目指す。	B	大きな身だしなみの崩れはないが、軽微な点で指導を受ける生徒がまだいる。	事前指導を充実させ、風紀委員会（生徒会活動）と更に連携を図りながら意識を高めたい。
	交通安全指導の充実	毎月1回交通安全指導日を設け、通学路の交通指導を行う。ヘルメットの確実な着用を呼びかけ、自転車・原付通学バイク生の無事故・無違反を目指す。	A	大きな事故は発生しなかった。街頭指導も適切に行えた。	個々に訴える指導を繰り返したい。特に自転車通学生やその他乗車の際はヘルメット着用を徹底していきたい。
	奉仕の精神を養う教育の充実	地域に貢献する奉仕活動を1回、校内の環境美化意識を高める奉仕活動を2回実施する。	A	企画した内容は充実して行えた。	日常の中でまずは自らがゴミを捨てない、拾う心を育てていきたい。
	主体性を育てる教育の充実	各クラスにおいて、各種専門委員を1人2役経験させる。	A	各クラスにおいて配慮をいただき責任をもって委員会活動を行えた。	生徒数が減少していることを考えると、委員会も兼務又は精選が必要な時期が来ている。適切な数を検討していきたい。
進路指導	キャリア教育の充実	社会人やキャリアコンサルタントによる講演会を年2回以上実施する。	B	ジョブカフェ愛worksやRECRUITの講師による講演会を実施した。	今後も、様々な分野の経験を持つ講師の講演会開催について検討していく。
	多様な進路希望に応じた指導の充実	進路課通信を学期に1回以上発行し、進路に対する意識の向上を図る。 進路満足度100%を達成する。	B A	進路意識については、進路ガイダンス（年2回）や進路情報の掲示や配布、各授業、HR等を通して向上を図った。 就職内定率100%を達成した。大学・専門学校についても、国公立大学を中心に、進学希望への対応ができています。	進学に対する意識の向上が、まだ不十分であるため、進学関係行事について、内容や回数を検討する。 次年度は、就職・進学について、前年度の方法を踏襲しながら、より個々の生徒への対応を充実させたい。
人権教育	人権学習の充実	人権・同和教育ホームルーム活動の年3回実施や年1回以上の人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。	B	予定通り実施した。「人権意識の高揚」はまだ十分でないと感じている。	人権集会や研修会など、人権委員会を中心とした活動を充実させたい。
		人権だよりを年6回以上発行し、人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実させる。	B	5回分作成した。生徒が中心となって作成しており、分かりやすい内容のものとなった。	人権委員会実施後1週間以内を目処に発行していきたい。
	情報モラル教育の充実	授業や講演会などを通して携帯電話やインターネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。	A	授業において、生徒に対して情報発信の方法やメディアとの関わりについて理解させた。	SHR、ホームルーム活動などを活用して、今後も情報モラルについて理解がさらに深められるように努力していきたいと考えている。
	異文化理解の充実	国際交流会等を通して異文化への関心を高め、異文化を尊重する態度を育てる。	A	隔週の授業内でアメリカの学校と交流、料理教室などを実施した。関心の高まりから、国際関係への進路希望者が増えた。	来年度も、授業内での交流を充実させていきたい。
現職教育	研修の充実	校内研修を年5回実施するとともに、校外研修の活用や研修報告を通して、資質向上を図る。	A	校内研修や校外研修の報告会を16回実施した。	学校の実態やニーズに合った研修になるように努めたい。
		年5回以上の研究授業や公開授業時のアンケート・教員相互の授業参観等を通して、授業改善に役立てる。	B	研究授業を4回実施した。	教員相互の授業研修をより活発に行えるように工夫したい。

保健・安全管理	保健活動の充実	毎月1回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行する。また、生徒保健委員会活動を充実させ、健康に関する情報発信と意識向上に努める。	B	保健だよりを毎月発行した。生徒保健委員会活動では、校内放送を自主的に運営させた。	保健委員会の自主的活動について工夫したい。
		生徒に対し、専門家による健康に関する講話を開催する。	A	食品衛生講話1回と伊方町と連携した食育講座を2回実施した。	今年度の状況を踏まえて、食育講座は来年度も継続していく。
	衛生管理の徹底	毎月1回衛生委員会を開催する。	B	毎月衛生委員会を開催した。	衛生委員会で協議した内容を職場環境の改善に生かせるように努めたい。
		教職員に対し、教職員健康管理医による講話を年1回開催する。	B	7月に「腸内フローラ」について教職員健康管理医が職員講話を実施した。	日程について再考し、1学期中に実施し、健康診断までの意識向上に努めたい。
安全管理の徹底	毎学期1回安全点検を実施する。	B	学期に1回安全点検を実施し、施設設備の修繕等を行った。	事務課と連携し、早期の事後措置を徹底したい。	
図書活動	図書活動の充実	朝の読書の質の向上を目指すとともに、ブックトークなどを通じて読書に対する意識を向上させる。	B	SHR時の朝の読書やホームルーム活動などを通じて、読書に対する意識の向上を図った。	朝の読書や授業等を通じて日ごろから読書に親しめるように努力する。
		図書委員会で「図書館だより」を年間3回以上発行し、図書館活動を生徒・保護者に啓発する。	A	すでに図書館だよりは年3回、発行し全員に配布した。図書館だよりで新しく購入した本や伊方町図書館から借りた本を紹介した。	図書館だよりを発行し、配布することにより、読書の大切さを伝える。
		図書館来館者数延べ400人、年間一人あたりの貸出数3冊以上を目指す。	C	現在、調査したところ来館者数は257名、一人あたりの貸出数は1.04冊であった。よく読書をする生徒とそうでない生徒の差が大きかった。	できるだけ多くの生徒が本を借りて読書をするように奨励する。放課後、読書をしやすいような環境を整える。
PTA活動	PTA活動の充実	ホームページや「PTA便り」を通して、旬な情報を伝え、学校行事への積極的参加を促す。	A	ホームページの更新は毎日行っており、内容の改善に努めた。PTA便りも毎月発行できた。	1日平均約300件のホームページ閲覧者数を、さらに増やしていけるよう、内容を工夫していきたい。
		PTA総会の出席率55%以上を目指す。	B	PTA総会の出席率は54.5%であり、目標には届かなかったが、半数以上の保護者に参加していただいた。	保護者が学校行事に関わる機会を増やしていけるよう、積極的に呼びかけていきたい。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	光熱水費・消耗品費の節約を啓発するとともに、計画的で効果的な予算執行をする。	B	年度末の予算残に対する支出見込など、早めの把握と節約などの対処ができた。	経費の節減については、教職員へ呼びかけをし、意識の向上を図っていきたい。予算残額は常に意識し、修繕等は緊急を有するものから対応していきたい。
		迅速かつ適正な事務処理をする。		迅速な事務処理については、少し課題も残る。	
	環境整備と安全管理	定期的な校内巡視により、不良箇所の早期発見・早期対応に努め、施設の長寿命化を図る。 屋外環境の保全と美化に努める。	B	小修繕については早期対応ができたが、規模の大きい改修は予算的に手が付けられない状況である。 校内の樹木の管理や、通学路の美化には積極的に取り組むことができた。	改修箇所については、今後も積極的に安全面と緊急性を訴えて予算要求をし、ひとつづつ改修していきたい。 引続き校内環境の安全管理と美化に努めたい。
地域協働	地域と連携した取組	地域行事への参加、年6回以上を目指す。	A	はなはな祭り、佐田岬ワンダーナイト、地域の文化祭等に10回以上参加した。	生徒の負担も考慮しながら、無理のない範囲で積極的に地域行事に参加したい。
	生徒の自主的な活動の充実	地域活性化に関するコンクール等へ積極的の応募する。	A	えひめ地域づくりアワードユース2018参加（優秀賞）、せんたんミーティング開催等、自主的な活動に取り組んだ。	来年度も、生徒の自主性を育むことのできる取組を継続していきたい。